

週報

感染性胃腸炎(腸管病原菌)検出

センター受託検査分より

検出菌 ウイルス	平成28年												平成29年																	
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月 ~6日	8月 ~13日	8月 ~20日	8月 ~27日	9月 ~3日	9月 ~10日	9月 ~17日	9月 ~24日	10月 ~1日	10月 ~8日	10月 ~15日
カンピロバクター	72	56	111	153	116	189	214	150	101	118	66	84	61	68	80	122	83	118	142	18	17	24	28	22	18	33	25	44	41 (48)	24
病原性大腸菌	140	146	163	167	150	157	240	182	166	227	180	147	107	105	89	113	64	135	206	27	49	32	53	26	22	42	12	18	23 (31)	22
腸管出血性大腸菌	0	0	0	0	0	1	3	1	0	3	0	1	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	1
サルモネラ	12	4	2	8	12	4	19	21	12	16	4	6	0	1	7	11	10	13	18	12	6	7	4	4	4	0	1	3	1 (2)	3
黄色ブドウ球菌 MSSA	23	20	25	14	19	32	14	24	23	27	8	15	6	11	12	15	9	21	32	2	5	4	6	3	2	14	5	6	4 (6)	2
黄色ブドウ球菌 MRSA	11	11	16	21	20	27	24	19	19	18	14	20	16	19	13	17	15	23	27	5	2	3	6	4	5	7	6	4	1	5
腸炎ヒブリオ	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	1	0	3	3	1	9	10	9	4	2	2	0	2	1	3	0	5	9	3	2	1	5	1	2	1	1	2	3 (5)	1
ロタウイルス	4	19	29	24	29	1	0	0	0	1	0	1	1	0	1	6	6	3	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
アデノウイルス	2	0	0	0	1	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0
ノロウイルス	20	20	5	9	2	2	5	0	0	0	0	21	7	4	8	6	11	13	8	0	0	0	2	0	1	0	0	2	0	1

- * () は前回集計後に新たに検出された件数を含めて表示しています。
- * 前回のその他の2件増はプレジオモナスでした。
- * その他の1件は、アエロモナスでした。

広島県感染症発生動向週報

平成29年第41週(10月9日~10月15日)

2 一類・二類・三類・四類感染症及び全数把握五類感染症発生状況

類別	報告数	疾患名	計	西部	西部東	東部	北部	広島市	呉市	福山市
一類	0	発生なし	0							
二類	10	結核	10	3	3	1		1	1	1
三類	1	腸管出血性大腸菌感染症	1					1		
四類	4	日本紅斑熱	2			2				
		レジオネラ症	2			1		1		
五類全数	4	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	3	1		1			1	
		後天性免疫不全症候群	1					1		

注) 西部…大竹市、廿日市市、府中町、海田町、熊野町、坂町、安芸高田市、安芸太田町、北広島町、江田島市
西部東…竹原市、東広島市、大崎上島町
東部…三原市、尾道市、世羅町、府中市、神石高原町
北部…三次市、庄原市

- 詳しい流行状況は、広島県感染症・疾病管理センターのホームページをご覧ください。 <http://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/hcdc/>

広島県感染症情報センター 提供

定点・全数把握疾患週報【広島市】(第41週 10/9~10/15)

広島市感染症対策協議会/広島市感染症情報センター 提供

1. 腸管出血性大腸菌感染症

1件(O26)の報告があり、今年の累計は9件となりました。

腸管出血性大腸菌は、感染力が強く、汚染された食品を食べたり、患者や保菌者の汚染された手指を通して二次的に感染します。特に、乳幼児や高齢者は重症化しやすいため、注意が必要です。

手洗いの励行、食品の十分な加熱など感染予防対策を徹底しましょう。

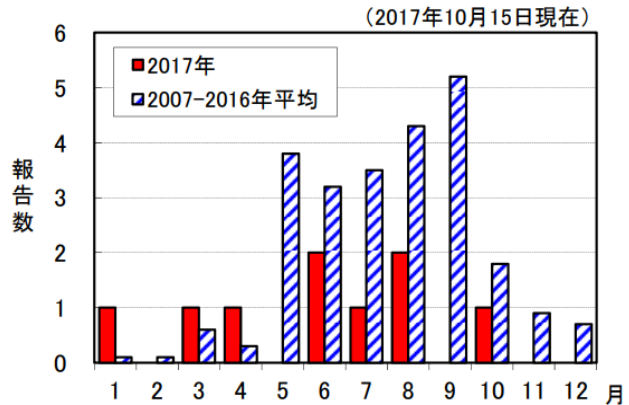
2. RSウイルス感染症

定点当たり1.46人と、前週と比べてやや減少しました。

3. レジオネラ症

1件の報告があり、今年の累計は21件となりました。

腸管出血性大腸菌感染症の月別報告数(広島市)



■ 定点把握感染症報告状況(週報対象)

定点種別	疾患名	報告数	定点当たり	平均過去5年間(注)	発生記号	定点種別	疾患名	報告数	定点当たり	平均過去5年間(注)	発生記号	急増減		前週と比較しておおむね1:2以上の増減
												↑	↓	
フィル	インフルエンザ	3	0.08	0.09		小児科	流行性耳下腺炎	3	0.13	0.67		急増減	↑	前週と比較しておおむね1:2以上の増減
小児科	咽頭結膜熱	5	0.21	0.29		小児科	RSウイルス感染症	35	1.46	1.24		増減	↔	前週と比較しておおむね1:1.5~2の増減
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	40	1.67	1.35			急性出血性結膜炎	-	-	0.05		微増減	↔	前週と比較しておおむね1:1.1~1.5の増減
	感染性胃腸炎	69	2.88	3.81		眼科	流行性角結膜炎	6	0.75	0.90		横ばい	↔	ほとんど増減なし
	水痘	4	0.17	0.43		基幹	細菌性髄膜炎	-	-	0.03		報告数が少数の場合などは、発生記号を記載していません。		
	手足口病	25	1.04	1.14			無菌性髄膜炎	-	-	0.06		インフルエンザ定点数(小児科定点を含む)	37	
	伝染性紅斑	2	0.08	0.12			マイコプラズマ肺炎	-	-	0.37				小児科定点数
	突発性発しん	9	0.38	0.56			クラミジア肺炎(オウム病を除く)	-	-	-		眼科定点数	8	
	百日咳	-	-	0.03			感染性胃腸炎(ロタウイルス)	-	-	-		基幹定点数	7	
	ヘルパンギーナ	5	0.21	0.30								(注)過去5年間の同時期平均(定点当たり)		

■ 全数把握感染症報告状況

類型	疾患名	報告数	累計	備考
2	結核	1	110	男性(70歳代)
3	腸管出血性大腸菌感染症	1	9	女性(10歳代)・O26
4	レジオネラ症	1	21	男性(60歳代)
5	後天性免疫不全症候群	1	5	男性(20歳代)・感染者・推定感染地域:国外

■ 新たに判明した病原体検出状況

(検査:広島市衛生研究所)

診断名	主症状	年齢	性別	発症年月日	検査材料	検出病原体
ヘルパンギーナ	発熱(38.5) 上気道炎	9	男	2017/09/05	咽頭拭い液	パラインフルエンザウイルス1型
流行性角結膜炎	結膜浮腫 結膜発赤	34	女	2017/09/06	結膜擦過物	アデノウイルス54型
その他の呼吸器疾患	細気管支炎	0	男	2017/08/26	咽頭拭い液	ライノウイルス
その他の消化器疾患	腸重積	4	男	2017/09/08	糞便	アデノウイルス1型

* 感染症発生動向調査に基づく病原体定点搬入分のみ掲載